

ベゴニア・センパフローレンス

Begonia semperflorens LINK etOTTO シュウカイドウ科

1 経営的特徴と導入方法

ベゴニア・センパフローレンスは、従来は花壇用苗ものと鉢物の両方の利用が行われていたが、近年圧倒的に花壇用の利用が多くなり、鉢物としての出荷は非常に少なくなっている。

冬期の加温設備さえあれば、周年出荷することができるが、春～夏期に公共的な花壇などでの利用に偏っている。

表1 10a 当たり旬別所要労働時間 (単位: 時間)

月	1 月			2 月			3 月			4 月			5 月			6 月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
時間	101	101	36.7		229.6	9.2	27.5	211.2	156.1	192.8	192.8	27.5						

7 月			8 月			9 月			10 月			11 月			12 月			合計
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
													9.2					1,294.7

(注) 1. 東京都農業経営指標事例集(1995.1)

2. 収穫鉢数64,279鉢/10a

2 生理生態的特性と適応性

シュウカイドウ科に属する。ベゴニア・センパフローレンスはベゴニアの仲間でも最もポピュラーなものの一つである。

種子は10ml で300,000粒と非常に微細である。子葉は2枚で卵形をしており、27℃の恒温では8～12日、昼温23～25℃・夜温18℃で14～20日で展開する。

本葉の展開は互生であり、子葉の展開が終了後、第1本葉から順に分化され、第3本葉まで10日間で1枚ずつ展開する。第3本葉以後は5日間程度で展開するようになる。第3本葉くらいまでの茎の伸長はほとんど見られず、第4～6本葉までの節間は、徒長しなければ1cm前後となる。

茎の増加は下部の側芽が発達して株状の草姿ができあがる。茎数(分枝数)は開花期には10本程度、花壇などで十分発育した株では20～30本にもなる。

花序は第6本葉以上の側芽から形成され、第6本葉が展開してから30～35日後に開花を開始する。一度開花が始まると、その上位の側芽はほとんどすべて花序となる。花序には雄花と雌花があり、雌雄異花とよばれる。ベゴニアの花序ははじめ雄花が次々と咲き、最後に雌花が咲いて花序が終了する。

3 作型と品種

	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
1 1月播種									
1 2月播種									
1 1月播種									

(1) 作型

需要さえあれば周年生産の可能な品目である。耐寒性のない植物のため降霜期には使用できないので、4～10月が鑑賞期となりこれに向けた出荷が行われている。

播種期あるいは挿し芽を実施する時期で出荷期が決まり、逆に出荷に合わせてスタートの時期を決めることができる。

現在の主な出荷期は、3月下旬～5月下旬が中心である。春の出荷が中心となるため、加温のできる施設が必要である。

需要さえあれば栽培特性と技術上は周年出荷できるが、現在は周年での十分な需要はない。

(2) 品種

大きく青葉種と銅葉種に分かれる。青葉種はバーシティーシリーズ（スカーレット他）、銅葉種は洋酒シリーズ（ジン、ウォッカ、ウイスキー他）。

4 栽培

(1) 播種

播種用土は、立枯れ性の病害が発生しないように無病性の用土または消毒を実施したものを使用する。

用土は PH6前後で、排水性、通気性のよい軽い用土が適している。また、移植の際、根が絡まないようにパーミキュライトやパーライトなどの混合用土を使用するとよい。

用土には肥料を混入せず無肥料とし、水稻用育苗箱であれば、1箱当たり0.25ml を条播きする。覆土はしない。種子は10ml あたり300,000粒と細かいため、発芽するまでは、底面吸水とし子葉の展開が揃ったら底面吸水を止め、乾いたらかん水するようにする。

(2) 育苗中の管理

苗が小さいうちは噴霧器によるかん水を行い、徐々にノズルかん水に変えていく。最初の追肥が遅れると生育が極端に遅れる場合があるので初期の追肥は3～4日間隔で窒素・りん酸・加里を30～40ppm の濃度の液肥を葉面散布する。第1葉が5mm 程度になったら90～100ppm を週1回施す。

温度管理については、播種から子葉展開までは比較的高温で生育が速やかで27℃が最適とされるが、一般

的には20～27℃でよく、この期間は8～14日である。子葉展開から第1本葉までは20～23℃がよく、この期間は11～12日である。第1本葉展開以降は15～18℃で管理する。

(3) 移植

2～3枚の本葉が展開している時期に行うが、この時期は播種から45～60日である。用土は軽くて排水性がよく腐植質に富むものが適している。PHを6前後に調整する。移植用土には、1リットル当たりマグアンプK 3g、ハイポネックス1g、BMようりん1gを混入する。

苗は深く植えずぎないように注意して、竹ばしなどを用いて移植床に植え付ける。移植床には水稻育苗箱が適している。1箱に約200本の苗を移植する。

(4) 鉢上げ

鉢上げは第5～6葉が展開したとき9cmポリポットへに行う。深植えにならないように注意しながら竹くしなどを使って植える。深植えになると根張りが悪く生育が遅れる。鉢上げ用土はPH6前後にする。

冬期は昼温25℃、夜温15～18℃で管理する。温度が高いほど生育は速く、低いほどゆるやかである。経費が少なく栽培の容易な温度は15℃である。10℃でも栽培できるが、生育が遅く、灰色かび病など低温性の病気の発生に注意が必要である。

5 主要病害虫とその防除対策

(1) 病 害

ア 糸状菌（かび）による病害

茎腐病、炭疽病、白星病、灰色かび病、うどんこ病、さび病などが知られている。

イ 細菌（バクテリア）による病害

斑点細菌病が知られている。

ウ ウイルスによる病害

ズッキーニ黄斑モザイクウイルス(ZYMV)、ソラマメウルトウイルス(BBWV)の発生が知られている。

(2) 虫 害

ハマキムシ類が加害するとされているが、他の害虫も含めて県内では不明な点が多い。

6 出荷

9cmポットの場合は本葉3～4cm程度になったところを出荷の目安とする。(鉢上げ後約60日前後)。開花特性として長日条件で生育が早くなるため、初夏から夏にかけて気温の上昇も伴って45日前後で出荷になる。

参考・引用文献

1) 武田和男、山田益男、「農業技術体系花卉編8、1・2年草」、農山漁村文化協会、(平成6年)

ベゴニア・センパフローレンス栽培ごよみ

月	旬	生育 状況	作 業	栽 培 の 要 点	摘 要						
11	上	播 種 期	播 種	1. 作型 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>播 種 期</th> <th>鉢 上 げ 期</th> <th>開 花 ・ 出 荷 期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11月下旬 ~ 1月下旬</td> <td>1月下旬 ~ 3月下旬</td> <td>3月下旬 ~ 5月下旬</td> </tr> </tbody> </table>	播 種 期	鉢 上 げ 期	開 花 ・ 出 荷 期	11月下旬 ~ 1月下旬	1月下旬 ~ 3月下旬	3月下旬 ~ 5月下旬	
	播 種 期				鉢 上 げ 期	開 花 ・ 出 荷 期					
	11月下旬 ~ 1月下旬				1月下旬 ~ 3月下旬	3月下旬 ~ 5月下旬					
中											
下											
12	上	播 種 期	鉢上げ	2. 品種 青葉種と銅葉種に分けられる。 青葉種：バーシティーシリーズ（スカーレット他） 銅葉種：洋酒シリーズ（ジン、ウオッカ、ウィスキー他）							
	中										
	下										
1	上	鉢上 げ 期	3. 育苗 (1) 播種 播種用土は、無病性のものを用いる。 種子は10ml 当たり300,000粒と非常に細かく、播種後覆土はしない。発芽するまでは底面給水とし、子葉が揃ったらかん水は上から行う。								
	中										
	下										
2	上	開 花 期	(2) 温度管理 播種から子葉展開までは、高温で生育が速やかで、一般的には20~27℃がよく、8~14日で子葉が揃う。子葉展開から第1本葉までは、20~23℃、第1本葉までは、15~18℃で管理する。								
	中										
	下										
3	上	開 花 期	(3) 移植 播種後45日~60日頃（本葉2~3枚時）に、竹ばしなどを用い、移植床に植えつける。移植床は水稻育苗箱が適している。用土は、PH6前後で軽くて排水性がよく、腐植質に富むものが適している。								
	中										
	下										
4	上	開 花 期	4. 鉢上げ 本葉5~6枚時に9cm程度のポリポットに鉢上げする。深植えになると根張りが悪く、生育が遅れるので注意する。								
	中										
	下										
5	上	開 花 期	5. 温度管理 冬期は昼温25℃、夜温15~18℃で管理する。温度が高いほど生育は速く、低いほどゆるやかである。経費が少なく栽培の容易な温度は15℃である。10℃でも栽培できるが、生育が遅く、灰色かび病など低温の病気の発生に注意が必要である。								
	中										
	下										
6	上	開 花 期	6. 出荷 本葉3~4cm程度になったところを出荷の目安とする。（鉢上げ後60日前後）								
	中										
	下										